

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市農芸高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校
(2)	育みたい児童生徒像	○将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒
	ありたい教職員像	○目指す学校像実現に向けて、生徒指導力と学習指導力を高めることができる教職員 ○生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 専門的な知識・技術の習得、進路希望の実現、人格形成 <保護者> 安全・安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立 <地域住民> 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<保護者> 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信 <地域住民> 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施 <同窓会> 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成 <大学等や産業界> 有能な人材育成への期待	<保護者> 本校教育活動への理解と協力、特に家庭の教育力の向上 <地域住民> 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用 <同窓会> 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓 <大学等や産業界> 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携	
(3) 前年度の学校関係者評価等		・「挨拶ができる」「言葉遣いも丁寧で感じがよい」等生徒に好感を持った。 ・教職員の努力や頑張りにも敬意を表す。今後も継続した教育活動を望む。 ・社会情勢の変化に対応する教育（ICTデジタル社会への対応、コロナ禍における人との交流・関わり、専門高校の役割）を充実させ、社会に適應できる生徒の育成を期待する。	
(4) 現状と課題	教育活動	・目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・農業教育、家庭科教育を進める上で、施設・設備の充実が急務である。	
	学校運営等	・地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のスペシャリストや地域産業を担う人材の育成のため、高等教育機関や産業界等と連携して、より実践的な学習活動を展開する。 ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業生の減少傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある「新しい農芸高校」の実現に向けて全教職員で取り組む。 ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 ・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。 ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を充実し基礎学力の向上を目指すとともにコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・高い目標を持たせ積極的に資格取得を奨励する。 ・生徒一人ひとりが納得いくコース選択を目指す。 ・多面的な学習指導を実施するために図書館を活用する。 ・ICTを活用した学びを推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力診断テスト、基礎学力テスト、進路模試、補習を実施する。 ○生徒が納得するコース選択を目標に各学科・コースと連携し、説明会、学年通信等を発行し、学年行事を充実させる。 ○授業の充実を図り、最大限の授業変更を行い、自習時間を減らす。 ○ICTを活用した学習に係る年間計画を作る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成績不振による原級留置者をなくす。 ○検定合格・資格取得者数のべ1, 450名(1人2つ以上)以上 ○図書館を活用した授業50時間以上、生徒一人あたりの貸し出し冊数年5冊以上 ○基礎学力合格率90%以上(1. 2学年) ○ICTを活用した授業を行った教員100% 	<p>県指定事業「人権の視点を取り入れた授業改善」により、教職員、生徒間のコミュニケーション能力の向上に成果をあげた。授業内容の理解について、1学年88%、2学年90%、3学年90%がわかると感じており、残り10%の生徒への「わかる授業」づくりが課題である。</p> <p>1学年のコース決定では、説明会や面談等により、全員が納得いく選択をすることができた。</p> <p>授業変更などにより、自習時間を減らすことができた。</p> <p>ICTを活用した年間計画を作成したが、授業実践に課題がある。</p> <p>原級留置者なし。</p> <p>1400名(2月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館授業利用64時間 ・生徒1人あたり2.1冊貸出 ・教職員1人あたり8.5冊貸出 ・1学年 84.9% ・2学年 85.2% <p>ICT活用授業 78%</p>	※
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識を高め、挨拶の励行と生活マナーの向上を図り、一人ひとりの進路実現に向けた指導に取り組む。 ・企業との連携を深め就職先の安定確保に努める。 ・専門性を活かした進学指導を強化する。 	<p>3学年の、就職斡旋を希望した生徒の進路決定率は100%で、3学年の進路指導が充実していると感じている生徒は97%であった。丁寧な面接指導等の成果であ</p>	

	<p>・中学生やその保護者にとって、本校に入学したいと思える出口対策に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 学年—勤労観を育み自己理解を深める指導を行う。 ○2 学年—自己の実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、進路の意思決定ができることを目指す。 ○3 学年—進路決定に向け学年と協力し、進路未決定者をなくす。 ○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者への早期からの指導を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 学年の進路講話を4回以上実施 ○各学年進路希望調査を2回実施 2、3年生は1回以上の個人面談実施 ○進路広報誌「あすなろ」を1学年3回 2学年5回 3学年5回 以上発行 ○学年、学科と連携し、100社以上の企業訪問を行う。生徒は3社以上の企業見学 ○3学年校外模試を3回実施 ○インターンシップ（2年生1人1回以上）を実施 	<p>る。また、公務員試験にも複数の合格者があり、一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行うことができた。</p> <p>進学においても、国公立大学の合格者など、今年度の目標は、おおむね達成できたと考える。</p> <p>1 学年進路講話を6月、10月、1月、2月に実施した。</p> <p>各学年進路講話を2回実施、3年生は8月、2年生は2月に個人面談を実施した。</p> <p>「あすなろ」1学年3回、2学年5回、3学年5回発行した。</p> <p>企業訪問125社以上、生徒の応募前職場見学は3社見学した。</p> <p>3 学年進学希望者校外模試を3回実施した。</p> <p>インターンシップを2学年対象に1月24日～27日の4日間実施した。</p>	※
生徒指導の充実	<p>・遅刻、欠席を減らし、校則の遵守と日常的な校内美化指導など環境教育を進める。</p> <p>・担任と生徒指導部の連携強化を図る。</p> <p>・組織的な生活指導を通じて生徒の問題行動の抑止を図る。</p> <p>・日常の挨拶の徹底と、生活マナーの大切さを指導する。</p> <p>・部活動や学校行事への積極的な参加を促す。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例の生活点検を実施する。 ○毎日の登校指導等を通じて挨拶の励行を図る。 ○環境デー、校外清掃ボランティア等を実施する。 ○部活動を充実させる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例生活点検初回合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す。 ○全教職員の100%が生徒に対しての声掛けができていると感じることを目指す。 ○全生徒・教職員の80%以上が挨拶はできていると感じることを目指す。 	<p>どの学年も遅刻は少ない。生活点検に当日欠席しても、後日期限内に全員が合格した。問題行動も少なく学校として落ち着いている。</p> <p>ただ「挨拶」は生徒と教員間でできている意識に差がある。生活マナーを含めると指導は多岐に渡るが、指導を絞って一枚岩の指導をしていきたい。</p> <p>当日合格 3年89%、2年90%、1年85% 再点検合格100% 100% 55%</p>	※

	<p>○全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができると感じることを目指す。</p> <p>○部活動加入率70%以上</p> <p>○環境デー・校外作業への参加生徒が70%以上</p>	<p>63%</p> <p>加入率83%</p> <p>実施できず</p>	
<p>農業教育の充実</p>	<p>・専門科目における資格を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る。</p> <p>・農業教育を充実させ、関連分野への興味・関心の向上を図る。</p> <p>・農業クラブ活動を充実させる。</p> <p>・専門性を活かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る。</p> <p>・農業教育の推進のため適切な施設・設備の活用、更新を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○専門科目を通じて、資格取得講座の開設及び指導を行う。</p> <p>○インターンシップ、ファームステイ等への取組を促し、農業関連分野へ興味・関心を深める。</p> <p>○GAP更新やICTを活用した授業を展開する。</p> <p>○6次産業化、スマート農業の取組を推進する。</p> <p>○生徒の希望に応じたコース決定指導を行い、ガイダンス、面接等でミスマッチの無いよう配慮する。</p> <p>○老朽化した施設・設備の改修と予算化を要請する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○推奨する資格取得者延べ500名以上、職業教育顕彰30名以上、アグリマイスター顕彰25名以上、農業クラブ競技会（県大会で最優秀4つ以上、東海大会優秀賞を2つ以上、全国大会優秀賞4つ以上）</p> <p>○コース選択満足度100%、学習環境での生徒満足度90%以上</p> <p>○各種イベント、出前授業、地域開放等30回以上</p> <p>○GAPの取組2分野以上</p>	<p>日本農業技術検定をはじめ専門の授業で学んだことを活かした資格取得に取り組んだ。</p> <p>意見発表会、プロジェクト発表会などの大会を開催し、農業クラブ活動の充実に努めた。</p> <p>毒物劇物、造園技能検定、フラワー装飾技能検定、園芸装飾技能検定などの講座を開講し、指導を行った。</p> <p>米でJGAP、マコモでASIA GAPの認証を取得した。</p> <p>1学年の学科・コース選択に向けてガイダンスを行うと同時に、保護者向けにも情報発信した。</p> <p>職業教育顕彰で19名、アグリマイスター顕彰で23名の表彰を受けた。農業クラブ競技会においては、県大会最優秀4つ、東海大会優秀賞3つという結果であった。</p> <p>地域の文化祭等に多数参加した。また、中学校の出前授業にも意欲的に取り組んだ。</p>	<p>◎</p>

<p>家庭科教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導するとともに家庭クラブ員としての自覚を持たせ、生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進学に向けた専門知識の習得を図るために補習授業を行う。 ○教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより習得させ授業に還元する。 ○専門科目における資格取得を勧め、上級の資格取得に取り組む。 ○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、社会マナーの向上を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭クラブ活動の充実度90%以上、資格取得者数延べ800名以上 ○社会マナーに関する個別指導を一人につき、2年生1回以上、3年生2回以上 ○地域連携参加生徒の満足度90%以上 ○進路希望達成者90%以上 	<p>各種コンクール等の数はやや少なめだったが、積極的に応募・参加し、さまざまな場面で生徒の活躍する姿が見られた。</p> <p>小論文指導や面接指導等を行った。</p> <p>今年度は、近畿高等学校家庭科教育研究大会が三重県で行われ、教員全員が大会に参加し、近畿府県の先生方と有意義な交流ができた。</p> <p>家庭クラブ員充実度98%</p> <p>資格取得(1/27現在)</p> <p>延べ人数 1005名</p> <p>3年生全員→2回</p> <p>2年生全員→1回</p> <p>地域連携生徒満足度100%</p> <p>進路希望達成者97.4%</p>	<p>◎</p>
<p>人権教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取組を推進する。 ・校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成・実施することにより人権教育を推進する。 ・生徒個々の家庭状況や進路目標などを把握し、適切な指導を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権LHR、人権講演会、個別面談、三者面談、家庭訪問等の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識の向上90%以上 	<p>「障がい者と人権」をテーマとした人権講演会を実施した。事前に教員を対象とした研修を行った。また、講演会の前後には人権LHRを行い、生徒の人権を推進した。</p> <p>人権講演会後の生徒の人権意識に関するアンケートを実施した。その結果、89%の生徒が人権意識の向上を実感した。</p>	<p>◎</p>
<p>環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育で「育てたい生徒の力」を共有し日常の教育活動の中で環境教育を実践する。 ・地域とのコミュニケーション活動を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育推進を校内の委員会に位置づけ、組織的に取り組む。 ○環境マネジメントシステムにおける実施計画を策定し、全教職員で共有する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し、期間中に全教職員が各々の授業で環境教育を実践 ○地域清掃活動の実施 ○全教職員協力のもと、ISO14001の趣旨に乗っ取った環境マネジメントシステムを維持 	<p>環境週間、環境月間を中心に年間を通じて、環境への意識を高め環境教育が実践された。コロナ渦により、本年度も学校環境デー(地域清掃)は実施できなかった。</p> <p>平成14年度から20年間認証継続してきたISO14001は、12月31日をもって認証を返上したが、1月1日以降、四日市農芸高校版環境マネジメントシステムとして、環境活動・環境教育の推進など継続した取組を実施している。</p>	<p>◎</p>

	○生徒の環境問題に対する理解・関心の向上90%以上	96%	
防災教育・健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を実施し、いざという時に備えられる組織運営を行う。 ・生徒の各種検診を確実に行う。 ・保健室利用、学校生活において気になる生徒など担任、学年、科、分掌との情報交換・共有を密にし、迅速に対応する。 ・新型コロナウイルス対策として、マスク着用、消毒や手洗いの徹底などの周知及び方策を行う。 ・生徒の心と体を守る取組を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の防災訓練を実施する。 ○AED講習(職員対象5月:生徒対象7月)、エピペン講習等を実施する。 ○検診の再検査等の連絡及びその診断結果の回収まで確実にを行う。 ○必要に応じてスクールカウンセラー(32回/年)・発達障がい支援員(12回/年)につなげ、支援体制を構築する。 ○保健便りを毎月発行する。 ○性教育講座(1学年対象7月)を実施する。 ○生徒、教職員が毎日健康観察を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の防災意識の向上90%以上 ○内科検診、胸部X線、心臓検診、検尿等の受診率100% ○不登校、中途退学の生徒の減少(令和3年度:不登校2 中途退学0) ○「命の尊さ」に関する校長講話を年3回以上 	<p>防災訓練を9月と12月の2回実施した。9月の防災訓練では全校避難訓練だけでなく、各学年に分かれて消火・煙体験、救助袋滑降訓練・起震車体験などを行った。12月には、教室での避難訓練や全学年対象の三角巾包帯法講習を行った。</p> <p>AED講習の実施、スクールカウンセラー・発達障がい支援員との支援体制を構築し、生徒教員との連携に繋げることができた。</p> <p>保健便り、性教育講座等により、生徒の健康教育を推進できた。</p> <p>生徒、教職員の毎日の健康観察は、生徒で約90%教職員で80%と課題があった。</p> <p>99%</p> <p>100%</p> <p>(令和4年度:不登校2 中途退学1)</p> <p>5回実施</p>	◎
改善課題			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な授業研修会を実施する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業公開を年2回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の授業満足度80%以上 	<p>ICT活用を中心に研修会を実施した。</p> <p>人権LHRの公開授業2回、校内での授業公開週間の取り組みを実施した。</p> <p>90%</p>	◎

<p>開かれた学校作りと組織運営の充実、情報提供による信頼の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等、校外から参加する催しの企画運営を見直す。 ・HPの効果的な運用を検討し、最新の情報を発信する。 ・PTA役員・理事会を充実させ、PTA行事の改善を図る。 ・さまざまな広報媒体により本校の特色・魅力の発信を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文書、HP及び「きずなネット」によりPTA行事や保護者公開の学校行事などの紹介をする。 ○本校の取組を積極的に報道機関に資料提供する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等の参加者の満足度 90%以上 ○HPの更新月5回以上 ○報道機関に取り上げられる回数年10回以上 	<p>コロナ禍のため、学校説明会や農芸祭など、限定参加により、安全な企画運営を実施した。</p> <p>HPを積極的に活用し情報発信を行った。</p> <p>PTAの人権講演会へのサポートや農芸祭への参加など学校へ貢献いただいた。</p> <p>1学年97%、2学年95%、3学年94%が満足している結果である。</p> <p>月20回以上更新</p> <p>15回</p>	<p>※</p>
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総勤務時間の縮減に向けて、働き方改革に取り組み、働きやすい環境をつくる。 <p>【活動指標】〔令和3年度比較、()内は令和3年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日を定期考査期間中とし、定時に退校できる職員の割合80%以上を目指す。(56%) ○部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す(95%) ○放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合80%以上を目指す。(60%) <p>【成果指標】〔令和3年度比較、()内は令和3年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年360時間を超える時間外労働者数を0人に削減 (24人) ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人に削減 (127人) ○1人当たり月平均時間外労働時間30時間以下に削減 (25.6時間) ○1人当たりの特別休暇を含む年間休暇取得日数を21日以上 (20日) 	<p>時間労働者の人数、時間は、減少したものの、部活動の指導時間や、会議の時間設定など、働きやすい環境づくりへ取り組まなければならない。</p> <p>78%</p> <p>89%</p> <p>29%</p> <p>22人</p> <p>115人</p> <p>27.1時間</p> <p>19.1日</p>	<p>◎</p> <p>※</p>

<p>不祥事根絶に向けた取組</p>	<p>・不祥事の根絶と教育の信頼回復のための取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○「学校信頼向上委員会」を設置し、「信頼される学校であるための行動計画」に反映及び周知徹底する。</p> <p>○臨時的任用講師、非常勤講師ともに校長が教員としての心構え、講師の服務等についての研修をする。</p> <p>○教職員による体罰、セクハラ、わいせつ行為等の有無について生徒へのアンケートを実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○教職員による体罰、不祥事、不適切な発言をなくす。</p>	<p>学校信頼向上委員会を設置し委員会の活用やコンプライアンスハンドブックによる研修を実施した。</p> <p>校長からの、継続的な注意喚起により、教職員による、体罰、不祥事、不適切な発言等はなかった。しかしながら、気を引き締め、信頼される学校であるためにさらなる取組、研修等が必要である。</p>	<p>◎</p>
--------------------	---	---	----------

改善課題

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>防災教育や人権教育の取組、コロナ渦での、感染症対策をとりながら農芸祭の公開など地域連携について一定の評価をいただいた。課題として、教職員の働き方改革やさらなる地域との連携、生徒の「自ら考えて行動する力」をつけて欲しいという要望があった。また、今年度、ISO14001を返上し、新たに農芸高校版環境マネジメントシステムをスタートさせた。そのため、より充実した取組が必要である。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>「人権の視点を取り入れた授業改善」を活用し、生徒の「自ら考えて行動する力」を育成する。</p> <p>感染症対策をとりながら、効果的な地域連携を実施する。</p> <p>人権教育と教科指導を連携させ、生徒の自己実現を図り、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>「職員の働き方改革」・「部活動ガイドライン」に沿った学校教育活動の活性化と効率的な運営を行う。</p> <p>農芸高校版環境マネジメントシステムを活用した学校運営を行う。</p> <p>90年を超える農業、家庭の専門高校として、伝統を継続し、地域や中学生に支持され続ける教育と学校運営を行う。</p>